



JAPAN AIRLINES

「仙台空港に降りる飛行機の窓から、お花畠が見えたら素敵ですね。」

だいたいコットンボール1個が5ムグラ前後。15~20個あれば範下一足分になります。収穫したコットンボールはジンニングマシンという機械で、種と繊維に分け、いろいろな太さの綿の糸に撚つて、製品に仕立てます。今年の収穫量見込みはシードコットン(種付き)で1.6トン程度ですが、来年はもっと仲間と烟を増やして、東北コットンを欧米のアパレルブランドへ売り込みにいくつもりです。

綿花栽培は面白い！

収穫祭というのが、また楽しい。世界中の生産地で収穫祭があります。老若男女が集い、

一日ピクニック気分で過ごします。人と人の絆をつむぐ秋の一大イベントですね。荒浜でもりますよ、11月頃に。コットン栽培って、なんだか一年中面白いんですよ。プロジェクトに参加している、ある農家の奥さんは、就職予定だった会社が被災して困っていた息子さんが、コットン栽培だったら継いでもいいかななど言つて、農業に就いてくれたと喜んでいました。私は農作業をもっともっと楽しくしたいんです。

収穫祭で、またお会いしましょう。



生徒

左から

桑崎 彩子
日本航空 Web販売部

高橋 彩香
日本航空仙台空港 旅客グループ

小吹 有香
日本航空 Web販売部

高橋 奈々絵
日本航空仙台空港 旅客グループ

東北コットンプロジェクト 綿花畠訪問ツアー

10/26(水)出発 大阪・福岡・札幌発着

●10/27(木)東北コットンプロジェクトの綿花畠訪問！ ●仙台市内から綿花畠への送迎バス付き！ ●仙台市内で開催される「東北の自然復興 東北コットンプロジェクトパネル展」(10月25日~30日開催)で綿花の成長の様子やプロジェクトについて学ぼう！ ●併設「MARCOARTチャリティギャラリー」で画家マルコ氏にも会える！

▶詳しくは下記URLをご覧下さい。



MARCOART マルコアート絵画展 / 東北コットンプロジェクト写真展

グリーンプラザ仙台(アクアホール) 10/25(火)~10/30(日)

アメリカン・ポップアート界の第一人者ピーター・マルコが、東北の人々と自然の復興を願い、MARCOARTチャリティギャラリーを仙台で開催します。また東北コットンプロジェクトの軌跡を追った写真展を同時開催いたします。

▶詳しくは下記URLをご覧下さい。

JAL×東北コットンプロジェクトの取り組みについてもっと詳しく知りたいという方は、 www.jal.com/ja/corporate/csr/cotton.html

東北コットン
TOHOKU
COTTON
PROJECT

東北コットンプロジェクト

コットン学誌上講義

「アメリカではね、コットンの花見を空から楽しむんですよ。」

お花見もお国柄ですね

アメリカコットンベルトの端っこカリフォルニアにサンホーキンバレーというところがありまして、世界有数のコットンの産地です。見わたす限り地平線まで綿花畠がつづくほど広い。ここのお花見はね(気球や飛行機に乗つて上空から眺めるんです。黄色とピンクのじゅうたんの上を飛びます)。ただですが、来年にはもっと増やすつもりだから、飛行機の窓からのぞけるかもしれませんね。

綿花というからには…

花が綿になる、そう思つている人が多いけれど、正解は花の下のがくの部分。まず白い花が咲いて、太陽を浴びて黄色く変わり、10日くらいでピンク色に染まり落花します。



草刈り体験談

みなさん！生徒役そして草むしり、一日おつかれさまでした。最後に感想をひとつづつお願いします。

「草をひとつひとつ抜いていくことで、いちを育み、土地がよみがえる、そんなことに感動しました。」(小吹有香)
「このあたりは季節ごとに顔つきを変えるきれいな土地でした。稻から綿に変わつても、またそつあつてほしい。」(高橋彩香)

「いろんな方のいろんな話が聞けて、いろんな想いの手助けができるのがうれしかった。」(桑崎彩子)
「時がたつと震災のことも忘れ去られそうで…。このプロジェクトなら想いがつづいていくと思う。」(高橋奈々絵)

「収穫祭で、またお会いしましょう。」



希望の花が咲いた

はじめての綿花栽培をスタートして約四ヶ月。花見を迎えた生産組合の皆さん。このあたりは季節ごとに顔つきを変えるきれいな土地でした。稻から綿に変わつても、またそつあつてほしい。(高橋彩香)
「このあたりは季節ごとに顔つきを変えるきれいな土地でした。稻から綿に変わつても、またそつあつてほしい。」(高橋彩香)
「いろいろな方のいろんな話が聞けて、いろんな想いの手助けができるのがうれしかった。」(桑崎彩子)
「時がたつと震災のことも忘れ去られそうで…。このプロジェクトなら想いがつづいていくと思う。」(高橋奈々絵)



こんどう けんいち
先生 近藤 健一



大正紡績取締役
コットンプロジェクト発起人
業界ではコットン博士と呼ばれる



東北コットンプロジェクト

被災地の農業生産組合・農業法人とアパレル関連会社で発足。塩害等で稻作のできなくなった農地で、綿の栽培、紡績、商品化、販売を一貫してサポート、被災地の復興を目指すプロジェクトです。

www.tohokucotton.com



被災地仙台荒浜地区で進む東北コットンプロジェクト。

9月2日その綿花畠で「ワタの花見会」が開催された。

当日の天気予報は雨だったが、思いが通じたかのように青空がのぞき、地元の人々とプロジェクト関係者のたくさんの笑顔が集つた。

その日は、JAL社内で募ったボランティア総勢37人も仙台空港と東京から駆けつけ、草刈りに汗を流した。

コットン博士近藤さんの講義はそんな中で行われた。